

～ 日本看護系学会協議会連携事業 ～  
公益社団法人日本看護科学学会 平成24年度 災害看護支援事業

## 事業完了報告書

宮城大学看護学生・教職員による  
南三陸町に在住する高齢者への  
健康支援活動を行うための  
システムづくり

所属機関： 宮城大学

代表者名： 佐々木久美子

## ■ 事業内容

事業の内容、手法、場所、対象者とその人数などを具体的に記載すること。

被災から2年が経過し、南三陸町の保健活動は徐々にこれまでの機能を取り戻すかに見える。しかし、被災後の業務は依然多忙であり、震災前の地区活動が難しい状況にある。

このような中、被災地の大学として、行政や地区組織が必要としていることに対して中長期的に継続して支援を行っていくことは重要であると考え、本学は震災後から宮城県南三陸町に入り学生・教職員が一体となりボランティア活動を行ってきた。当初は、地元地区組織代表の要請に対応する形で活動を展開したが、後半は役場の保健師と連携し、南三陸町全体の高齢者を対象として、行政、地区組織、大学の三者が一体となりその健康課題に取り組むことができた。しかし、その支援体制は学生の長期休業期間に限定されがちであり継続実施上の課題となっている。そのような課題を克服するために、三者一体となった長期的な高齢者支援システムの構築を図る必要がある。

そこで、学生、教職員による高齢者等を対象とした健康支援ボランティア活動を、行政組織・地区組織・大学の三者が一体となり、継続支援活動を可能とするためのシステムづくりをおこなうことを目的に展開した。

活動内容は以下のとおりである。なお、詳細については別紙を参照。

### 1. 南三陸町住民への健康支援活動について

#### 1) 高齢者への健康支援

##### ① 「スマイル健康塾」(8月と3月): 外出可能な高齢者を対象

※「スマイル健康塾」は長期休暇を利用して学生が主体となり、外出可能な高齢者を対象に、企画・運営を町の保健師と相談しながら実施した。

※1日のプログラムは健康相談、健康劇、軽運動、交流会であり、今年度は以下の2回実施した。

- ・8月: 震災当初から活動を展開している山間地域の住民を対象に実施。
- ・3月: 南三陸町全町の高齢者を対象に実施。

##### ② 山間部の高齢者への家庭訪問

- ・震災当初から活動を展開している山間地域の、外出困難な高齢者等を対象に6名の高齢者の家庭訪問を実施した。
- ・大学が震災当初から健康支援をさせていただいている高区上沢地区の民生委員から役場保健師に独居高齢者の家庭訪問の依頼があり、来年度は地区担当保健師と情報交換を行いながら支援を行いたい。家庭訪問を行う場合は、必要時看護教員も同行訪問をする。

##### ③ 高齢者の生活不活発病予防の一環として園芸作業、交流会を実施。

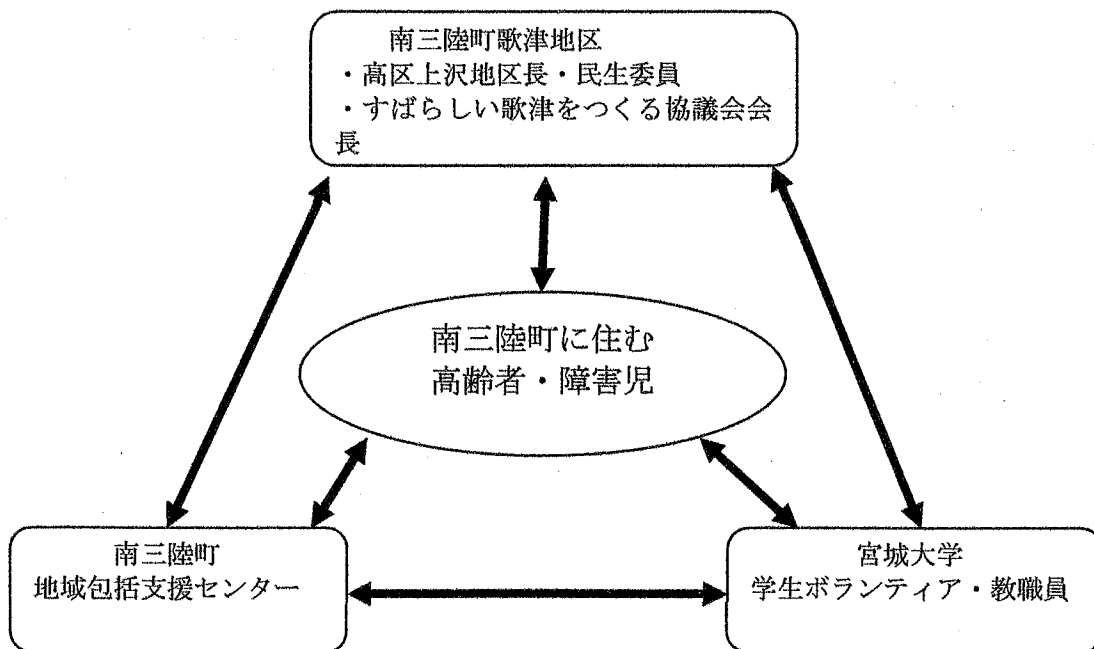
- ・今年度から開始した活動であるが、作業予定日の前日に雨が降るなどのため、作物を植えることまではできなかったが、向日葵の花を植える作業をした。
- ・野菜をつくるには、畑の準備、野菜の種の準備、草取りなど収穫までの計画が必要であることがわかった。現地で野菜をつくっている方の協力を得ながら進めていく必要があると実感した。

#### 2) 子どもたちへの支援

- ・南三陸町の障害児の親の会からの要請により、月1回開催している町の復興市で開催している「おもちゃの図書館」に参加し、子どもと交流を図った。
- ・南三陸町入谷公民館で南三陸町の障害児の親の会が開催している「おもちゃの図書館」は毎月第4日曜日開催しており、平成25年度の活動要請があり活動予定としている。

## 2. 高齢者への支援システムの構築

- ・平成 23 年 9 月、南三陸町でのボランティア活動を開始するに当たり、南三陸町歌津地区の地区組織（すばらしい歌津をつくる協議会会長・地区長・民生委員）の協力を得て展開していた。また、その活動内容が、高齢者への家庭訪問による傾聴ボランティアであったため、南三陸町地域包括支援センターに状況を報告した。その結果、南三陸町地域包括支援センターの保健師の協力も得ることが可能となり、今年度、年 2 回の「スマイル健康塾」と高齢者への家庭訪問、園芸作業、高齢者との交流会を行うことができた。
- ・ボランティア活動を実施するにあたり、役場と地区組織の方々それぞれに、打ち合わせ、反省会を行ってきた。今年度は組織間の連携を図るための打ち合わせ会の開催を試みたが、双方の都合が合わなく、昨年度と同様の展開となった。しかし、学生ボランティア活動については、上沢地区の区長、民生委員、すばらしい歌津をつくる協議会会長には理解して頂き、昨年度以上に協力も得られるようになってきた。また、地域包括支援センターの保健師さんたちとも、南三陸町の高齢者支援の方向性を共有し次年度以降も一緒に活動を展開していくこととなった。
- ・今後、以下の組織体制が効果的に運営されるように取り組んで行きたい。



## ■ 事業成果

できるだけ具体的に記載すること。

### 1. 南三陸町住民への健康支援活動について

#### 1) 高齢者への健康支援

- ・「生活不活発病予防」をテーマに、地域包括支援センター保健師と活動内容を検討し年2回の「スマイル健康塾」、家庭訪問、交流を兼ねた園芸作業を行った。
- ・「スマイル健康塾」は昨年度に引き続き実施したため参加者も多く、「楽しかった」「次は何時」と言う声が聞かれた。1日のプログラムで会ったが、学生による健康劇、運動指導士による軽運動、そして介護予防教室で住民の方々が取り組んだ踊りや歌の披露があり、住民自ら楽しんでいる様子が見られた。1年前は「1年ぶりに笑った」と言う声にこちらもうれしく思ったが、今年は住民の方々の悲しみ、辛さはありながらも前向きに生きようとしている姿を感じることができた。また、そのような気持ちに変えていこうとしている保健師さんたちの思いを感じた。
- ・学生の会の企画・運営は2年生が中心となって行っていることもあり、まだまだ現地に対応しきれていないが、健康塾の実施前後に保健師さんたちからアドバイスをいただくことにより多くの学びを得ている。学生にとって1回の健康塾を行うための準備は並大抵のものではないが、被災地の大学で学んでいる学生として何をしなければならぬのか、何ができるのか、毎回毎回原点に戻って考えることが多いが、確実に力をつけていると思われる。現在は主に看護学部の学生だけであるが今後は他学部の学生にも参加を呼び掛ける予定である。
- ・園芸作業は、今年度は初めての取り組みであり、また、雨の影響もあり向日葵の種を蒔きことで終わってしまった。しかし、次年度に向けて、3月に現地の農家の方を講師に学習会、畑の整地作業を行った。住民の方と最初から行うのはなかなか時間的余裕もない中で行うので難しいと感じる。次年度は、学生が主体となり、それを地域包括支援センターの保健師さんと協同で高齢者の方々を巻き込む形で実施していきたい。新年度になったら、保健師、地区組織の方々と相談し計画を立て実施していくこととする。

#### 2) 子どもたちへの支援

- ・復興市で開催している「おもちゃの図書館」で子どもたちとの交流を図った。おもちゃの図書館は大人の方々がメインにいる中で、学生が毎回2~3人参加したが子どもたちも親しみを感じて一緒に遊んでいた。次年度は、復興市が終了となる可能性もあり、地元の障害児の親の会からの要望もあり、南三陸町入谷公民館で月1回開催している障害児を対象とした「おもちゃの図書館」に参加することとなった。

### 2. 健康支援システムづくり

- ・宮城大学が行うボランティア活動の内容について、役場と地区組織のそれぞれの方々の理解を得られるようになってきたと思われる。また、連携・調整もこれまでより行いやすくなってきている。さらに来年度は、ボランティア活動を地元のニーズに対応させ、健康支援のシステムの中に位置づけるよう取り組んでいきたいと考えている。